

横浜自然観察の森の歴史と目的

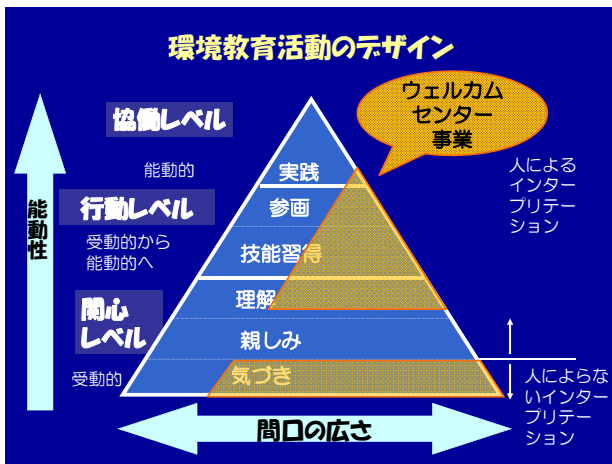
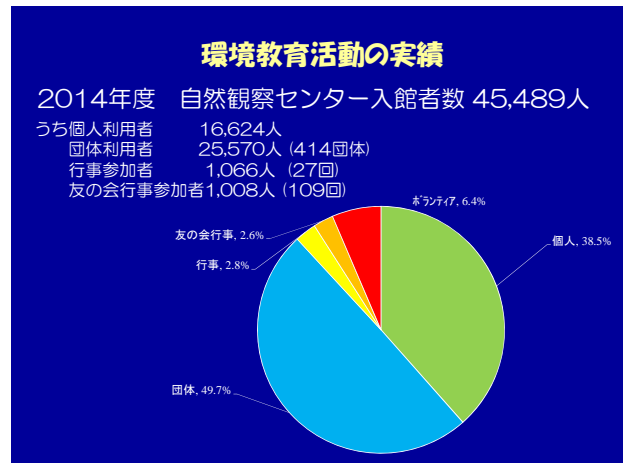
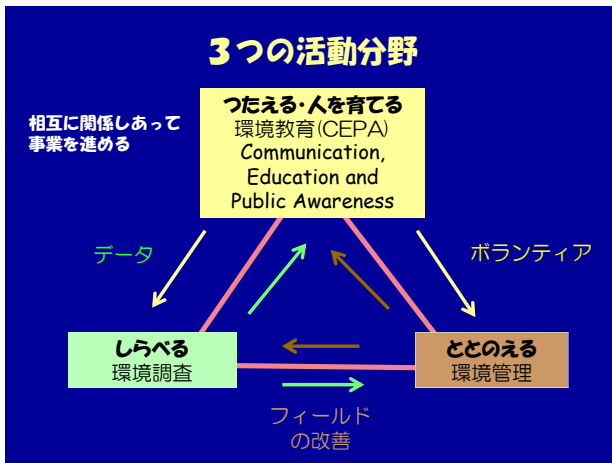
- 環境庁の補助により1986年開園。
- 全国10ヶ所の都市近郊に整備された「自然観察の森」の第1号。
- 横浜市により設置、運営されている。
- 目的：自然環境の中で植物及び昆虫、野鳥等の小動物と触れ合い、これらの観察を通じて自然保護思想の普及及び向上を図る。

生きものたちと
いっしょにくらして
いくことのたいせ
つさを学ぶ場
なのです！

横浜自然観察の森の概要

- 面積45.3ha
周囲の市民の森や鎌倉市部分と合わせて1,100ha
- 設備
自然観察センター、4本の自然観察路(トレイル)、森、草地、水辺





- ### ウェルカムセンター事業
1. 屋内展示
(リニューアルオープン時)
 2. 森に親しむ行事
 - ・家族向け環境保全体験イベント「生きものを知る・守る」
 - ・体験学習校向け行事「レンジャーと森を歩こう」
 - ・企業のCSR活動の支援

ウェルカムセンター事業: 屋内展示

	人による インタープリテーション	人によらない インタープリテーション
屋内	レンジャーコーナーでの対応 	屋内展示
屋外	・団体へのレクチャー ・行事 	セルフガイドシート 屋外展示



ウェルカムセンター事業
体験学習校向け行事
「レンジャーと森を歩こう」



ウェルカムセンター事業
企業のCSR活動の支援



環境管理

- 利用者の安全を守るとともに、生物の生息環境を維持・改善するための管理を行なう
- 「生きもののにぎわいのある森」（生物多様性の保全された森）を長期目標に定めている
- 2005年と2012年に策定した保全管理計画に基づいて実施
- 保全管理計画のフォローアップ事業により実施結果をモニタリングし、チェックして、次の実施計画に活かしてゆく（順応的管理）

環境調査

- 園内の環境と生物の生息状況を確認し、教育事業のための資料を提供すると共に、環境管理の結果をモニタリングする。また絶滅危惧種を保全し、生物多様性を向上させるための調査を行なう
- 調査対象：鳥類、タイワンリス（外来種）、水生ホタル類、水質、草地のバッタ類、絶滅危惧種の植物、作業対象地の植生
- この他、ボランティアにより次の調査が行われている：植物、哺乳類、フクロウ、カエルの産卵、チョウ、トンボ
- 調査結果をまとめた報告書を毎年発行（公財）日本野鳥の会



おわり

